

文化人類学

①人間と文化

1

文化人類学における文化

・人間であることと文化

文化人類学における「文化」>一般的な「文化」

「文化」・・・魚にとっての水／「沈黙の言語」

⇒当たり前前にそれを習得し、その中で生きている。

当たり前すぎて意識できない。

「文化」

人間をほかの動物とは大きく異なる存在にしているものであり、かつ、人間が、後天的に、生きている社会の中で学習し獲得したもののすべて

2

・「人種」と民族と文化

「人種」という考え方

人間＝生物学的には1つの「種」

差異化、差別化の意図→形質的違いを利用

→「人種の違い」

(生物学的には連続的な差)

タイラーの「文化」観

⇔植民地主義化の「人種」観

3

・タイラーの文化の定義

文化または文明とは、知識、信仰、芸術、道徳、法律、慣習その他、社会の成員としての人間によって獲得されたあらゆる能力や慣習の複合総体である。

4

文化人類学とはどのような学問か

・植民地の拡大と文化人類学の誕生

「異なる人々(他者)」との出会い、関心

文化進化論(単系進化論的思想)

文化の違いは進化の程度の違い＝西洋が頂点

→のちに否定される

5

・文化相対主義と文化人類学

アメリカの文化人類学

→国内や周辺国の「他者」、現地調査

「文化相対主義」ボアズ

・・・世界に存在する多様な文化を優劣で評価する

ことはできず、それぞれに豊かな内容を含む

⇒画期的

西洋文化が進んでいるという考え方、文化の

優劣を含む考え方が前提になっていた

6

文化相対主義

- ・文脈の重視、文化全体の中での理解
- ・文化相対主義への批判も

自文化を相対化する視点の重要性

- ・自文化中心主義からの脱却、他の文化を理解しようとする・尊重する姿勢
- ・自分は他者にとっての他者であることの理解、他者の視点からみずからの文化、行為を見直す
⇒現代社会のなかでの重要性